修士論文

Basic LTI に準拠した

学習支援ツールの開発とその評価

Development and Evaluation of a Learning support tool that conforms to Basic LTI

熊本大学大学院

社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程

村上幸生

(学籍番号:115g8816) 入学年度 2011 年

指導:喜多敏博教授 中野裕司教授 江川良裕准教授

2012年6月

修士論文要旨(日本語)

題目

Basic LTI に準拠した学習支援ツールの開発とその評価

要旨

現在,多くの高等教育機関において LMS (Learning Management System,学 習管理システム)を用いた教育が行われており,その LMS 上で利用される学習 支援ツールも様々なものが存在する.特定の LMS 上で動作するように設計され た学習支援ツールは,同一種類の LMS 上でのみ動作可能であり,また,LMS のインストール毎に,学習支援ツールもプラグイン等としてインストールする 必要がある.

しかし, Basic LTI (Learning Tools Interoperability) に準拠した学習支援ツー ルであるならば, Basic LTI に準拠した LMS からすぐに動作させることが可能 であり, 逐一インストールすることも不要である.

本研究では、Basic LTI に準拠した学習支援ツールを開発し、その学習支援ツ ールが Moodle 1.9、Moodle 2.2、Canvas などの Basic LTI に準拠した LMS から 呼び出すことができることを検証した.また、同一の学習支援ツールでありな がら、呼び出し元の LMS コース毎や設置場所毎に別の学習内容を呼び出すこと ができる検証および学習支援ツールでの学習結果としてのスコア値を LIS Basic Outcomes Service 経由等で LMS に送信することができることの検証を行 った.

Basic LTIは、e ラーニングにおける学習支援ツールの相互運用性を保証する 標準規格として広まりつつあるが、その潜在的な可能性を活かした実装例が現 状ではまだ少ない.

今後の研究では、開発した学習支援ツールを実際の情報基礎科目の受講生に 提供し、学習支援ツールが学習に問題なく利用できるか等の評価を行いたい. また、通例では単一の LMS 内の範囲でしか行うことのできない相互評価や協調 学習の活動を、Basic LTI を使うことにより複数の LMS 間でも可能にする実装 も検討したい.

修士論文要旨 (英語)

題目

Development and Evaluation of a Learning support tool that conforms to Basic LTI

要旨

Today, LMS (Learning Management System) based education has been carried out in many higher education institutions, and there are a variety of learning support tools that are available on LMSs. However, a learning support tool designed for a particular LMS only works on the same type of LMS, and the tool must be installedon each LMS installation one by one.

In this study, I developed a learning support tool that conforms to the Basic LTI, its learning support tool and verified that it can be called from LMS that conforms to the Basic LTI, such as Moodle 1.9, Moodle 2.2, Canvas. And about the same learning support tool, Verification that can be called a learning content to another location every LMS and every course of the caller And Was verified that can be sent to the LMS a score value as a result of learning in and a learning support tool via LIS Basic Outcomes Service.

Basic LTI, although becoming more prevalent as a standard to ensure interoperability of learning support in e-learning tool, at present, still less an example implementation utilizing its potential possibilities.

In future study, provide information to students on basic subjects of the actual learning support tool was developed, we want to do the evaluation, such as the availability Learning support tool without any problem. and the activities of mutual evaluation and collaborative learning is customary in the range that can not be done only in a single LMS,

第1章 はじめに
1.1 背景
1.2 研究目的
1.3 研究方法
第2章 Basic LTIとは
2.1 Basic LTI 概要
2.2 Basic LTI を利用することのメリット 8
2.3 Basic LTI で使われる用語 8
(1)Tool Provider(ツール・プロバイダ)
(2) Tool Consumer (ツール・コンシューマ) 8
2.4 Basic LTIの利用方法
2.5 SCORM との相違10
第3章 開発した学習支援ツール12
 3.1 学習支援ツールの概要
3.2 開発環境1
3.2 開発環境(1) サーバ構成
 3.2 開発環境 (1)サーバ構成 (2)本体プログラム
 3.2 開発環境

第5章	おわりに	39
5.1	まとめ	39
5.2	今後の研究	39
謝辞		41
参考文南	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	42

図表一覧

义	1	解答を入力する問題4
义	2	マウス操作によりグラフを作成する問題5
义	3	Basic LTI の概要7
义	4	Moodle 1.9での設定例9
义	5	OAuth1.0 による認証10
义	6	SCORMとBasic LTIとの違い11
义	7	学習支援ツールの概要 1 12
义	8	学習支援ツールの概要 2 13
义	9	学習支援ツールの概要 3 13
义	10	学習支援ツールの概要 414
义	11	学習支援ツールの概要 514
义	12	学習支援ツールの概要 615
义	13	tool.php (一部)16
义	14	tool2.php の詳細17
义	15	LMS と学習支援ツール間の情報のやりとり18
义	16	Moodle 1.9の活動モジュール19
义	17	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録120
义	18	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 2 20
义	19	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 3 20
义	20	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 4 21
义	21	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 5 21
义	22	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 6 22
义	23	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録722
义	24	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 8 22
义	25	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 9 23
义	26	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 10 23
义	27	Tool Provider(ツール・プロバイダ)の登録 11 24
叉	28	Moodle2.2の呼び出し設定25

义	29	熊本大学の Moodle 上からの呼び出し26
义	30	Canvas のデモサイトからの呼び出し26
义	31	Moodle1.9における「活動」に自動的に付加される連番例27
図	32	「tool2.php」に getResourceKey()メソッドを実装28
义	33	「tool2.php」に学習支援ツールの振り分けを実装29
汊	34	wt4.php 31
义	35	LMS 側から見たユーザごとの学習進捗状況32
汊	36	アンケート用紙 34
汊	37	評価フィードバックがない例 36
汊	38	文字が見にくい例 36
义	39	「ポータル」が「トップ画面」であるということがわからない例
図	40	Safari による日付が表示されない例
汊	41	丸数字の識別が困難な例38
表	1	Basic LTI に準拠した LMS 一覧2
表	2	Basic LTI に準拠した学習支援ツールー覧 3
表	3	1 対 1 評価

第1章 はじめに

1.1 背景

現在,多くの高等教育機関において,教材管理および学習者の学習履歴や成 績管理などを統合的に管理することを目的として,LMS(Learning Management System,学習管理システム)を用いた教育が行われている.また,LMS上で利 用される学習支援ツールも商用のものから独自開発,オープンソースのものま で様々なものが存在している.これら特定のLMS上で動作するように設計され た学習支援ツールは,同一種類のLMS上でのみ動作可能であり,また,LMS のインストール毎に,学習支援ツールもプラグイン等としてインストールする 必要がある.具体的には,次のようなケースである.ある大学のLMS(Moodle) 上に開発された学習支援ツールを自分の大学のLMS上で利用する場合,自分の 大学のLMSが Moodle である必要があり,利用する学習支援ツールを自分の大 学の Moodle 上にインストールする必要がある.

こうした LMS の現状を踏まえ,学習支援ツールの相互運用を可能とすること ができれば、学習支援ツールの開発者(教員)および利用者(学生)双方のメ リットは大きいと思われる.

Basic LTI(Basic Learning Tools Interoperability) は、学習支援ツールの相互運用を可能とする技術に関する規格である。学習支援ツールをBasic LTI に準拠 させることにより、Basic LTI に準拠した LMS からすぐに動作させることが可能となり、逐一インストールすることもなく学習支援ツールを利用することができる.

Basic LTI は,近年,LMS 側での準拠は進んでおり(表 1 参照),学習支援ツ ール側での準拠は,海外では多くの例がある(表 2 参照)[1].その一例として, 「IMathAS(http://www.imathas.com/)」がある.IMathASとは,米国 Pierce College の David Lippman が開発したインターネット数学評価システム(Internet Mathematics Assessment System)のことであり,数学の宿題やテストの自動採点 のための Web ベースの数学の評価ツールのことである.この IMathASは,PHP および MySQL を使用したシステムであり,単純な数学の問題から,マウス操 作によりグラフを作成する問題まで多岐にわたっているのが特徴である(図

1

1・2 参照). また, 評定表機能 (Gradebook), フォーラム機能 (Forums), メッ セージ機能 (Messages), カレンダー機能 (Calendar) などがある.

このように特徴的な機能を持つシステムが, Basci LTI に準拠していることで, その機能を Basci LTI 準拠の LMS から手軽に利用することが出来る.

会社	製品名
Agilix	BrainHoney 2010.3 Agilix Learning Services 2010.3
ATutorSpaces	AContent v1.2
Blackboard	Blackboard Learn v9.1 SP4 Blackboard Learn v9.1 SP6 Learn 9.1 SP8
Desire2Learn	Learning Environment v8.4 Learning Environment v8.4.2 Learning Environment v9.0 Learning Environment v9.1 Learning Environment v9.4 Learning Environment v9.2 Learning Environment v10.0
Elsevier	Common Cartridges
Instructure	Canvas 2012-05-12
Jenzabar	JICS v7.2 e-Racer v1.2 eRacer v1.3 eRacer v1.4 JICS v7.3 JICS v7.4 JICS v7.4.3 eRacer v1.5 JICS v.7.5.3e-Racer v.1.6.3
Moodle	Moodle 1.9 Moodle 2.0
Multimedia Design and Technology Education.	Common Cartridges
OLAT	OLAT 7.0
Open Source Plugins	Blackboard 8 Building Block
Penn State	Penn State Angel BLTI
Sakai	Sakai 2.7 Sakai 3 - Version .4 Sakai Lesson Builder v1.5
SK C&C	LearningOn LRMS v1.0
SPV Software Products	Open source Building Block for Blackboard Learn 2.0.1 Open source PowerLink for Blackboard WebCT 1.3.01

表 1 Basic LTI に準拠した LMS 一覧

会社	製品名
Acontent	Acontent v1.1 Acontent 1.0
ALEKS Corporation	ALEKS 2012.2.7 ALEKS 2012.3.26
Angel Learning	ANGEL Learning Management Suite v7.4 SP5
Atutor	ATutor 1.64 Atutor 2.02 ATutor External Tools Module.09 Atutor 2.03
Barnes and Noble	Barnes & Noble NOOK Study BLTI Tool v1.0
California State University	Merlot Content Builder
Cengage Learning	Course 360 Common Cartridges
Chalk & Wire	ePortfolio v4.0
ChemVantage LLC	ChemVantage v2.0 ChemVantage v1.0.078
CompassLearning	CompassLearning Odyssey 2012.1
Courseload	Courseload v2.2.6
CourseSmart	CourseSmart ServiceHub 2.0
David Lippman	IMathAS (My Open Math) rev 890
Follett	CafeScribe Building Block for Blackboard
Learning Objects	Campus Pack v4.2
LearningTimes	BadgeStack v1
McGraw-Hill Tegrity	Tegrity BLTI v1.0 McGraw-Hill Campus v1.0
Noteflight	Noteflight 2.1
Open University	Common Cartridges
Pathbrite, Inc.	Pathbrite v1.0
Pebble Learning Ltd	PebblePad v2.5.4
Piazza Technologies	Piazza v11/22/11
Rustici Software	SCORM Cloud BLTI v 2011-11-16
SAFARI Montage	SAFARI Montage 5.1 (Digital Curriculum Presenter) SAFARI Montage v5.3
SBCTC - Washington State	Common Cartridges
SMART Technologies	SMART Notebook v.11.0.577.0

表 2 Basic LTI に準拠した学習支援ツール一覧

会社	製品名	
SoftChalk	SoftChalk 6.04.01 SoftChalk v7.01.04	
Sonic Foundry, Inc.	Mediasite v6.0.2	
SpACE	SpACE .5	
Toolwire, Inc.	Toolwire LTI System v1.0	
uCompass.com, Inc.	Boost v1.0 Ucompass Octane v1.0	
Universitat Oberta de Catalunya	Elgg 1.8.x Mahara 1.4.1	
University of Michigan	Subject Research Guides - Ctools Integration v1.0	
VitalSource	VitalSource Platform v3.0	
WebAssign	WebAssign API v1.0	
WebPA	WebPA 1.0.0.3	
Wimba Wimba Basic LTI Components v1.0.2		



図 1 解答を入力する問題

Demo - LTI > Assessment

Demo Assessment



図 2 マウス操作によりグラフを作成する問題

一方、日本国内では開発された実装例や日本語に対応した実装例はほとんど 例がないという現状があり、Basic LTIの特徴や学習支援ツールを Basic LTIに 準拠させる具体的な実装方法については広くは知られてない.

1.2 研究目的

上述した背景をふまえ、1) 学習支援ツールの相互運用を可能とすることの検 証、特に独自開発した学習支援ツールの相互運用を可能とすることの検証、換 言すれば、学習支援ツールを Basic LTI に準拠させることにより、Basic LTI に 準拠した LMS からすぐに動作させることが可能となり、逐一インストールする こともなく、複数の LMS から学習支援ツールの呼び出しが問題なく行えること の検証、2) LMS の Resoure Link ID での判別によって、同一の学習支援ツール でありながら、設置場所毎に別の学習内容を呼び出すことが可能であることの 検証、3) 学習支援ツールでの学習結果としてのスコア値を LIS Basic Outcomes Service 経由等で LMS に送信することができることの 3 つを検証するとともに、 それらの実装方法について具体的にわかりやすくまとめることを本研究の目的 とする.

1.3 研究方法

上述した研究目的を達成するためには, Basic LTI に準拠した学習支援ツール と Basic LTI に準拠した LMS を用意する必要がある. Basic LTI に準拠した学習 支援ツールとして, 情報基礎科目 (Word・Excel・PowerPoint) の学習支援を目 的とした学習支援ツールを新たに開発し, Basic LTI に準拠した LMS として, Moodle 1.9, Moodle 2.2, Canvas の3 種類を用意した.

新たに開発した Basic LTI に準拠した学習支援ツールは, レンタルサーバ上に 配置し, そのレンタルサーバ上の学習支援ツールを, 1) Moodle 1.9 から, 2) Moodle 2.2 から, 3) Canvas からという順番で呼び出し, 新たに開発した Basic LTI に準拠した学習支援ツールが, 複数の LMS から問題なく呼び出しが行える ことを実際に確認した.また, LMS の Resoure Link ID を利用することにより, 同一の学習支援ツールでありながら, 設置場所毎に別の学習内容を呼び出すこ とが可能であること, さらに学習支援ツールでの学習結果としてのスコア値を LIS Basic Outcomes Service 経由等で LMS に送信することができることを実際に 確認した.

第2章 Basic LTIとは

2.1 Basic LTI 概要

ここでは、Basic LTI とは何かについて述べる.

Basic LTI (Basic Learning Tools Interoperability) とは, IMS Global Learning ·Consortium (以下, IMS と呼ぶ)が, 異なるプラットフォーム間(異なる LMS 上)における学習支援ツールの相互運用を可能とする技術に関する規格を策定し,標準化した LTI (Learning Tools InterOperability)規格のことである[2]. LTI には, LTI 1.0, LTI 1.1, LTI 2.0 という3種類の規格があるが,本研究で使用した Basic LTI は, 2010年に策定された LTI 1.0 のことである. Basic LTI の具体的なイメージとしては,次のようなケースを想定することができる. ツール・プロバイダとして運用しているWeb上の学習支援ツールを,ツール・コンシューマとして運用しているA大学のLMS上やB大学のLMS上から利用するケース(図 3参照).



図 3 Basic LTI の概要

なお,ツール・プロバイダおよびツール・コンシューマについては後述する.

2.2 Basic LTI を利用することのメリット

ここでは, Basic LTI を利用することのメリットについて, 1) 学習者, 2) 学 習支援者という2つの観点から述べる.

1)に関しては、学習者は通常利用している自組織のプラットフォーム(LMS) にログインし、他組織のプラットフォーム(異なる LMS)にログインすること なく、他組織のプラットフォーム(LMS)上の学習支援ツールを利用すること ができる[3].また、高機能で学習効果も高い既存の Basic LTI 準拠の学習支援 ツールを、LMS 内のコンテンツの一部として手軽に利用することができる.

2) に関しては、学習支援者は自組織のプラットフォーム上(LMS 上)にあ る学習支援ツールの再利用や他組織との相互互換、つまり学習支援ツールの共 有を可能にすることができる[4].また、他の LMS に乗り換えた場合でも、コ ンテンツ内から呼び出している学習支援ツールをそのまま利用することができ る.(Basic LIT 準拠の LMS の場合)

2.3 Basic LTI で使われる用語

ここでは、Basic LTI で使われる基本的な用語について述べる.

(1)Tool Provider(ツール・プロバイダ)

Tool Provider (ツール・プロバイダ) とは,外部ツールや外部コンテンツのこ とで,(2) で述べる Tool Consumer (ツール・コンシューマ) で使用されるツー ルのことである. Tool Provider (ツール・プロバイダ)の例として, CourseSmart ServiceHub 2.0, CafeScribe Building Block for Blackboard, Learning Objects Campus Pak v4.2, NoteFlight 2.1 などがある (表 2 参照) [5].

(2) Tool Consumer (ツール・コンシューマ)

Tool Consumer (ツール・コンシューマ) とは, (1) で述べたツール・プロバイ ダから提供されたツールを使用する LMS のことである. Tool Consumer (ツー ル・コンシューマ)の例として, Desire2Learn Learning Environment v8.4.2 and v9.0, Blackboard 9.1SP4, Sakai v2.7, Open-Source LMS v1.0, Moodle 1.9, 2.0, 2.2 Module, PowerLink for Blackboard WebCT v8, Canvas Instructure などがある (表 1参照) [5].

2.4 Basic LTI の利用方法

ここでは、Basic LTIの利用方法について述べる.

Basic LTI を利用するためには,まず,各 LMS を Basic LTI が使える環境にし, Tool Consumer (ツール・コンシューマ) として機能するように行う必要がある. (※初期設定のままで Basic LTI が使える環境であれば,特に何もする必要はない.) 例えば, Moodle 1.9 の場合は, BasicLTI4Moodle (後述) を LMS にインストールすることにより, Tool Consumer (ツール・コンシューマ) として機能す ることができる.

次に, Basic LTI が使える環境になったら,利用する Tool Provider (ツール・ プロバイダ)を呼び出す設定を行う. Tool Provider (ツール・プロバイダ)を 呼び出す設定は, Tool Provider (ツール・プロバイダ)が提供する,1) ツール 名,2) ツールの URL,3) リソースキー,4) ツールのパスワードの4つを登 録する必要がある (図4参照).これで,LMS から Basic LTI を経由して Tool Provider (ツール・プロバイダ)を利用することができる.



図 4 Moodle 1.9 での設定例

また, Tool Provider(ツール プロバイダ), Tool Consumer(ツール・コンシュ ーマ)との間で交換されるデータの認証には, OAuth 1.0 が使用されている(図 5 参照).

oauth_version=1.0 (ASCII) oauth_nonce=9098e3ce2b45a1c92ce0d0d12f072a2b (ASCII) oauth_timestamp=1334908664 (ASCII) oauth_consumer_key=ims01 (ASCII) resource_link_id=1 (ASCII)

図 5 OAuth1.0 による認証

OAuth 1.0 とは、ブレイン・クックとクリス・メッシーナが始めたオープンプ ロトコルのことであり、デスクトップ、モバイル、Web アプリケーションなど にセキュアな API 認可 (authorization)の標準的手段を提供するものである[6]. 通常、Web サービスにおいて、外部リソースへのアクセスには、ユーザ ID と パスワードによる認証が行われるが、OAuth 1.0 を利用すると、ユーザ ID とパ スワードによる認証を行わずに外部リソースへのアクセスが可能になる.

2.5 SCORMとの相違

これまで Basic LTI について概観してきたが,本章の最後に,eラーニングの 世界標準規格である SCORM と Basic LTI との違いについてふれておく.

SCORM (Shareable Content Object Reference Model) とは、e ラーニングのプ ラットフォーム (LMS) とコンテンツの標準規格のことである[7]. アメリカ国 防省系の標準化団体 ADL(Advanced Distributed Learning Initiative)によって制定 され, WBT(Web Based Training)の開発が, プラットフォーム (LMS) と教材コ ンテンツに分離して行われることが特徴である.また,日本においては,日本 イーラーニングコンソシアム (eLC) が中心となり, SCORM の標準化を推進し ている.

SCORM を利用するためには、1) ランタイム環境、2) コンテンツアグリゲ ーション、の2つを用意する必要がある.1) は、API アダプタを利用して教材 コンテンツの学習履歴をLMS に送信、および教材コンテンツの学習履歴をLMS から受信する仕組みのことである.2) は、コンテンツ構造(データ構造・木構 造)を規定した教材コンテンツと、教材コンテンツに関するキーワード、制作 者情報,バージョン情報,紹介文などを XML 形式のフォーマットに記述した ものを1つのパッケージ(ZIP ファイル)にし,LMS に登録することである.

上述したように、SCORM はプラットフォーム(LMS) とコンテンツを分離 するという点において、Basic LTI とよく似ているといえる.しかし、SCORM と Basic LTI はその用途において違いがみられる.前者は、教材コンテンツを標 準化し、パッケージとして各 LMS 上に登録することにより、教材コンテンツの 相互互換を図ろうとするものである.一方、後者は、LMS 上で提供されている、 あるいは独立したサイトで提供されている学習支援ツール(SCORM における 教材コンテンツ)へのリンクを各 LMS 上に登録することにより、学習支援ツー ル(SCORM における教材コンテンツ)の相互互換を図ろうとすることである. 例えば、教員が独自開発した学習支援ツール(SCORM における教材コンテン ツ)を利用することができる.これが、SCORM と Basic LTI との相違であると いえる(図 6参照).



図 6 SCORM と Basic LTI との違い

第3章 開発した学習支援ツール

3.1 学習支援ツールの概要

ここでは、実際に開発した学習支援ツールについて述べる.

初年次教育における情報基礎科目(Word・Excel・PowerPoint)の学習支援を 目的とし,既存LMSの標準機能では不可能,または設定が煩雑であることが多 いパーソナライズ機能を兼ね備えた,Basic LTIに準拠した学習支援ツールを開 発した(図 7・8 参照).その学習支援ツールは、1)テキスト、2)練習問題、 3)掲示板の3部構成であり、各科目のトップページには、学習の進捗状況が表 示される(図 9参照).また、2)の練習問題については、単なる〇×式の問題 ではなく、実際にWord・Excel・PowerPointをマウスで操作しているかのよう に解答するものとした(図 10参照).さらに、解答結果および学習履歴が表示 される(図 11・12参照).



図 7 学習支援ツールの概要1



図 8 学習支援ツールの概要 2



図 9 学習支援ツールの概要 3



図 10 学習支援ツールの概要 4

<u> </u>	
ようこそ gakushu:7 さん	- HE
1. 0 2. 0 3. 0 4. 0 5	5. O
※ トの送信ホタンをクリックしてくた	2210
送信	解答結果が 表示される

図 11 学習支援ツールの概要 5



図 12 学習支援ツールの概要 6

3.2 開発環境

(1) サーバ構成

本研究で用いたサーバの構成は以下のとおりである.

OS : FreeBSD 7.1-RELEASE-p16 i386

CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU E3110 @ 3.00GHz

メモリ: 3.25GB ディスク容量: 10G 帯域幅: 100Mbps

ソフトウェア: Apache/1.3.42, mod_ssl/2.8.31 OpenSSL/0.9.8e, MySQL/5.1, PHP/5.2.17

(2)本体プログラム

Adobe Flash CS3 Profesional および Action Script2.0 にて開発した.また, PHP および MySQL との連携により学習履歴機能を実現した.

3.3 学習支援ツールを Basic LTI に準拠させる方法

開発した学習支援ツールを Tool Provider (ツール・プロバイダ)として設定 する方法は,以下のとおりである.

1)まず, http://www.imsglobal.org/developers/BLTI/よりダウンロードした「dist」 フォルダを Web サーバ上に配置する.

2)「dist」フォルダ内の「tool.php」という IMS が公開しているサンプルのソー スコード(図 13 参照)を,開発した学習支援ツール用に任意の名前でコピー する(本研究では「tool2.php」とした).この IMS が公開している「tool.php」 は,getUserKey(),getUserName(),getUserEmail(),getUserShortName(), getUserImage(),getResourceKey()などのメソッドにより Tool Consumer (ツー ル・コンシューマ)の情報(LMSの情報)を得ることができる実装コードが含 まれている.

```
1 K?php
 2 // Load up the Basic LTI Support code.
 3 require_once 'ims-blti/blti.php';
 4
 5 error_reporting(E_ALL & ~E_NOTICE);
6 ini_set("display_errors", 1);
7 header('Content-Type: text/html; charset=utf-8'); 
 8
 9 // Initialize, all secrets are 'secret', do not set session, and do not redirect.
10 $context = new BLTI("secret", false, false);
11 | ?>.,
12 <html>.
13 <head>.
     <title>IMS Basic Learning Tools Interoperability</title>.
14
     <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />_
15
16 </head>
17 <body style="font-family:sans-serif">_
18 <img src="http://www.imsglobal.org/images/IMSGLCLogo.jpg"/>。
19 <b>IMS BasicLTI PHP Provider</b>
20 This is a very simple Basic LTI Tool. If the message is a Basic LTI Launch,
21 it checks the signature and if the signature is OK, it establishes context.
22 All secrets are "secret"...
23 
24 <?php~
```

図 13 tool.php (一部)

 3) 学習支援ツール用に「tool2.php」のコードを編集する.編集箇所は4箇所で ある(図 14参照).

学習支援ツール用に改変する箇所



図 14 tool2.phpの詳細

<10 行目 \$context = new BLTI("gakushu", false, false);>

上述した「共通モジュール設定」内の「Resource Key」で設定した値(本研 究では「gakushu」)に変更する.

<12 行目 \$gaku = \$context->getUserKey();>

Moodle1.9 上のアカウント情報(任意の連番)を学習支援ツール側で利用するために追加する.

<13 行目 \$simei = \$context->getUserName();>

Moodle1.9 上のアカウント情報(姓・名)を学習支援ツール側で利用するために追加する.

<14 行目 \$resource = \$context->getResourceKey();>

Moodle1.9 上の活動情報を学習支援ツール側で利用するために追加する.(※ 詳細は後述)

<15 行目 \$resourcelinkid = substr(\$resource, 8, 2); >

getResourceKey()メソッドにより取得した活動情報(本研究では「gakushu:番

号」という形式)の左から8文字を除く下2桁のみを利用するために追加する.

<16 行目 \$outcomeid = \$_POST['lis_result_sourcedid']; >

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上のどの活動にどの UserID を使用して送信するのかを指定するために追加する.

<17 行目 \$outcomeservice = \$_POST['ext_ims_lis_basic_outcome_url']; >

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する PHP ファイル 「service.php」(サーバ/moodle/mod/basiclti/service.php)の URI を指定するため に追加する.

<18 行目 \$outcomekey = \$_POST['oauth_consumer_key']; >

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する際にどの 「Resource Key」を使用するのかを指定するために追加する.

ここでもう一度,LMS (ツール・コンシューマ) と学習支援ツール (ツール・ プロバイダ) の間でどのような情報がやりとりされているのかを整理しておく (図 15 参照).



図 15 LMS と学習支援ツール間の情報のやりとり

3.4 開発した学習支援ツールを Moodle 1.9 から呼び出す方法

(1) BasicLTI4Moodle のインストール

まず, Moodle 1.9 を Tool Consumer (ツール・コンシューマ) として機能させ るために, BasicLTI4Moodle[8]をインストールする必要がある. BasicLTI4Moodle は, http://code.google.com/p/basiclti4moodle/からダウンロードできる. ダウンロ ードした zip ファイルを解凍後, Moodle 1.9 にインストールする. インストー ル方法は以下のとおりである.

 サーバ上にある Moodle 1.9 のインストールフォルダ配下の「mod」フォルダ (/home/ymkami/www/moodle/mod) にダウンロードした「basicLTI4Moodle」フ ォルダ内の「basiclti」フォルダをコピーする.

 Moodle 1.9 の「サイト管理」メニューから「プラグイン」-「活動」にアク セスし、活動モジュールに「Basic LTI」が追加されていることを確認する(図 16 参照).



図 16 Moodle 1.9 の活動モジュール

(2) Tool Provider (ツール・プロバイダ) として登録

開発した学習支援ツールを Tool Provider (ツール・プロバイダ)として登録 する方法は,以下のとおりである.

 Moodle 1.9 の「サイト管理」メニューから「プラグイン」-「活動」-「Basic LTI」にアクセスする.(図 17参照).

ナイト管理 -		
■ 通知		
	活動モジュール	活動
' 評定 ロケーション	🌍 Basic LTI	3
□ 言語設定 [○] ブラグイン ○ 活動 ■ 活動の管理	👹 Hot Potatoes	0
	M LAMS	0
	SCORM/AICC	1
 Basic LTI SCORM/AICC 	聯 Wiki	0
 チャット 	🗊 チャット	0
 データベース 	● データベーフ	0

図 17 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 1

2) 「Basic LTI administration」をクリックする (図 18 参照).



図 18 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 2

3)「Create a new Basic LTI activity」をクリックする (図 19参照).



4)「モジュール共通設定」に以下の内容を入力する(図 20参照).

	Basic LTI
モジュール共通設定	
Remote Tool Name* 🇿	gakushu
Remote Tool URL* 🗿	http://ymkami.sakura.ne.jp/moodle/dist/tool2.php
Resource Key	gakushu
Remote Tool Password	

- 図 20 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 4
- 5)「Privacy」と「Basic LTI Extension Services」の各項目を以下のようにする(図 21 参照).

During and the second		
Privacy		
Send user name and surname to the external tool (?)	Always	•
Set a default value for the professor if delegating 🧿	Do not send 💌	
Send user email address to the external tool 🧿	Always	•
Set a default value for the professor if delegating (?)	Do not send 👻	J
Basic LTI Extension Services		
Accept grades from tool 🧿	Always	-
Set a default value for the professor if delegating (?)	Do not accept 💌	
Allow tool access to course roster (?)	Always	-
Allow tool access to course roster (?) Set a default value for the professor if delegating (?)	Always Do not allow	•
Allow tool access to course roster (2) Set a default value for the professor if delegating (2) Allow tool to store 8K of settings in Moodle (2)	Always Do not allow Always	•

図 21 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 5

6) その他の項目はデフォルトのままで、「変更を保存する」をクリックする(図 22参照).

Organization details	
Organization ID 👔	
Organization URL 👔	
Launch Options	
Popup Option 🧿	Launch tool in moodle
	変更を保存する

図 22 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 6

7) 新たに「gakushu」という Tool Provider (ツール・プロバイダ) が作成され る (図 23参照).

 通知 ユーザ コース 評定 ロケーション 言語設定 ・ims01≤× たっ!01<×× 	
 □ ユース □ コース □ ロケーション □ 言語設定 ● ブラヴイン ● ims01≰× ● tool01 	
□ ロケーション □ 言語設定 ゆ ブラグイン • tool01 <×	
■ 活動の管理 ■ Basic LTI	

図 23 Tool Provider (ツール・プロバイダ)の登録7

8)「活動の追加」ドロップダウンメニューから「gakushu」を選択する(図 24 参照).

() リソースの追加 💌	(?) 活動の追加 💌	
	活動の追加 ims01	
	tool01	ſ
	gakushu SCORMANCC	J
\square 24 Tool Provider (\square \square	ル・プロバイダ)の登録。	

9)「Basiclti Name」と「Basiclti Description」に以下の内容を入力する(図 25 参照).

	・ピック1の Basic LTIを更新中	
Basicti De	Basiclti Name* 学習支援ツール escription* ②	
	Trebuchet 1(8 pt) 言語 B J U S X2 X2 N N 三言言言 N 14 三言章 二 4 -	

図 25 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 9

10)「学習支援ツール」をクリックする (図 26 参照).

トピックアウトライン 北 ニュースフォーラム 🌑 Basic LTI 経由でのツールの呼び出し例1 1 🍃 sample 学習支援ツール

図 26 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 10

11)「学習支援ツール」が呼び出される(図 27 参照).



図 27 Tool Provider (ツール・プロバイダ) の登録 11

3.5 開発した学習支援ツールの Moodle 2.2 からの呼び出し

前節で述べた Moodle 1.9 は, Tool Consumer (ツール・コンシューマ) として 機能させるために, BasicLTI4Moodle をインストールする必要があったが,本 節で述べる Moodle2.2 は,デフォルトで Basic LTI が使えるようになっているの で,特にインストール等を行う必要はない.通常の「活動」を追加するのと同 様に「外部ツール」を呼び出すことによって呼び出すことができる.また, Moodle2.2 は熊本大学のサーバ上に設置した.呼び出す方法の一部(図 28 参照) および呼び出したスクリーンショットを以下に示す (図 29 参照).



- 40	
nx.	* 拡張要素を隠す
活動名*	
学習ツール1	
活動説明* フォント マ フォントサイズ マ 段落	2 C≥ (A) (5) □
B / II and x	
活動名	A89 .
パス: p	
* (?) 🗌 コースページに説明を表示する	
* ③ □ 記動時に活動名を表示する	
* ③ □ 記動時に活動説明を表示する	
起動UKI (2)	(+7)
http://yinkami.sakura.ne.jp/moodte/dist/tool2.php	
	—————————————————————————————————————
起動コノテナ 🥐 テフォルト 🔻	
コンシュマーキー* 🕐 gakushu	
共有秘密鍵* 🗿 🛛 👞 🔨 🔍 🔍 マスク解除	コンシューマーキー
カスタムパラメータ* 🧿	
	廿古秘宓碑
	六旬他省甦

図 28 Moodle2.2 の呼び出し設定



図 29 熊本大学の Moodle 上からの呼び出し

3.6 開発した学習支援ツールの Canvas からの呼び出し

Instructure 社が運営している Canvas http://www.instructure.com/のデモサイト から開発した学習支援ツールを Basic LTI 経由にて呼び出す設定を行い,開発し た学習支援ツールを Tool Provider (ツール・プロバイダ)として呼び出した. 呼び出したスクリーンショットを以下に示す (図 30 参照).

canvas	Courses • Assignments Grades Calendar	村上 幸生	Inbox Profile	Logout
Course-102	★ Course-102 Modules モジュール1 学習ツール1A			*
Home				
Discussions				
Grades		7		
People		1		
Syllabus	子習又抜フール	i		
Modules		2		
Collaborations	ようこそ 村上 幸生 さん			
	この学習支援ツールは、情報基礎科目(Word・ Excel・PowerPoint)を楽しく学習することを目的 としたものです。 下の「START」ボタンをクリックし、学習を開始しま しょう。 START			E

図 30 Canvas のデモサイトからの呼び出し

3.7 開発した学習支援ツールの別の学習内容を呼び出す方法

上述したように、開発した学習支援ツールは、Basic LTI に準拠した LMS から呼び出されることがわかったが、ここでは、Moodle1.9 において、開発した学習支援ツールの練習問題を直接呼び出す方法について述べる.

開発した学習支援ツールは、スタート画面⇒ジャンル選択⇒科目選択⇒学習 案内⇒学習内容の選択(テキスト・練習問題・掲示板)という流れで通常行わ れる.しかし、学習者によっては直接練習問題を行いたいということもあるで あろう.こうした学習者の要望は、getResourceKey()メソッドを利用することで 対応が可能である.

getResourceKey()メソッドとは, Moodle1.9 において,「活動」を追加するごと に LMS 上に自動的に付加される連番を取得するメソッドのことである. 例えば, 以下の「活動」についてみてみると, 学習支援ツールは「10」, Word タスク 1 は「11」, Word タスク 2 は「13」, Word タスク 3 は「18」, Word タスク 4 は「19」 という連番が付加されている (図 31 参照).



図 31 Moodle1.9 における「活動」に自動的に付加される連番例

この LMS (Moodle1.9) 上の連番を, getResourceKey()メソッドを利用して取 得することにより,開発した学習支援ツールの練習問題を直接呼び出すことが 可能となる.また,直接呼び出して行った練習問題の学習結果,学習履歴およ び学習の進捗状況は,スタート画面⇒ジャンル選択⇒科目選択⇒学習案内⇒学 習内容の選択(テキスト・練習問題・掲示板)という通常の流れで学習した場 合と比べて,同様の結果を得ることができる.

実装方法としては、上述した「tool2.php」内に getResourceKey()メソッドの追加と、LMS (Moodle1.9) 上の連番を元に呼び出される学習内容を振り分けるコードの追加の2つが必要である.「tool2.php」に実装したコードを以下に示す(図32・33 参照).

現状では、まず、LMS(Moodle1.9)上の連番を事前に調べ、その後、得られた連番を元に「tool2.php」をコーディングするという2つの作業が必要である.

1 <?php __ // Load up the Basic LTI Support code. 2 3 require_once 'ims-blti/blti.php'; 4 error_reporting(E_ALL & ~E_NOTICE);, ini_set("display_errors", 1);, 5 6 7 header('Content-Type: text/html; charset=utf-8'); 8 // Initialize, all secrets are 'secret', do not set session, and do not redirect. 9 10 \$context = new BLTI("gakushu", false, false); 11 12 \$gaku = \$context->getUserKey(); 13 \$simei = \$context->getUserName(); [14 \$resource = \$context->getResourceKey(); 1 15 \$resourcelinkid = substr(\$resource, 8, 2); 16 Soutcomeid = \$_POST['lis_result_sourcedid'];
17 Soutcomeservice = \$_POST['ext_ims_lis_basic_outcome_url'];
18 Soutcomekey = \$_POST['oauth_consumer_key']; 19 20 学習支援ツールの振り分け 21 \$DBSERVER = "mysql401.db.sakura.ne.jp"; . 22 \$DBUSER = "ymkami"; 23 \$DBPASSWORD = "Usagi819"; . 24 \$DBNAME = "ymkami_flash"; . 25 🗸

図 32 「tool2.php」に getResourceKey()メソッドを実装

```
55
    <?php.
56 if ($resourcelinkid==11){.
57 echo
58 <PARAM NAME=FlashVars VALUE='http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt1yu.swf'>。
59 <EMBED src= 'http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt1yu.swf'.
60 FlashVars='task=$gaku&simei=$simei'
61 width='800' height='600'></EMBED>_
62 ";~
63 }elseif($resourcelinkid==13){.
64 echo
65 <PARAM NAME=FlashVars VALUE='http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt2yu.swf'>
66 KEMBED src= 'http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt2yu.swf'.
67 FlashVars='task=$gaku&simei=$simei'\
68 width='800' height='600'></EMBED>\
69 ";\
70 }elseif($resourcelinkid==18){...
71 echo
72 <PARAM NAME=FlashVars VALUE='http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt3yu.swf'>_
73 <EMBED src= 'http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt3yu.swf',
74 FlashVars='task=$gaku&simei=$simei',
75 width='800' height='600'></EMBED>,
76
77 }elseif($resourcelinkid==19){...
78 echo
79 <PARAM NAME=FlashVars VALUE='http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt4yu.swf'>_
81 FlashVars='task=$gaku&simei=$simei'
82 width='800' height='600'></EMBED>
83 ";
80 <EMBED src= 'http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/wt4yu.swf'.
84 }else{ 🧠
85 echo
86 <PARAM NAME=FlashVars VALUE='http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/login.swff'>
87
    KEMBED src= 'http://ymkami.sakura.ne.jp/flashportal/login.swf'.
88 FlashVars='task=$gaku&simei=$simei'
89 width='800' height='600'></EMBED>
90
91 }
```

図 33 「tool2.php」に学習支援ツールの振り分けを実装

<56~62行目>

Moodle1.9 上の「活動」に付加されている連番「11」の活動を選択した場合, Word タスク1(Flash ファイル)を呼び出す.

< 63~69行目>

Moodle1.9 上の「活動」に付加されている連番「13」の活動を選択した場合, Word タスク 2 (Flash ファイル)を呼び出す.

<70~76行目>

Moodle1.9 上の「活動」に付加されている連番「18」の活動を選択した場合, Word タスク 3 (Flash ファイル)を呼び出す.

<77~83行目>

Moodle1.9上の「活動」に付加されている連番「19」の活動を選択した場合,

Word タスク4(Flash ファイル)を呼び出す.

<84~90行目>

Moodle1.9 上の「活動」に付加されている連番「11」「13」「18」「19」以外の 活動を選択した場合,学習支援ツール(Flash ファイル)を呼び出す.

3.8 開発した学習支援ツールでの学習結果をLMSへ送信する方法

ここでは、学習支援ツールでの学習結果としてのスコア値をLMS(Moodle1. 9)に送信する方法について述べる.上述したように開発した学習支援ツールは、 「テキスト」、「練習問題」、「掲示板」の3つから構成されているが、この内、 「練習問題」の結果は学習支援ツール側のデータベースへ格納され、学習者の 学習履歴および学習進捗状況に利用される仕組みになっている.したがって、L MS 側から学習者の学習進捗状況を確認することはできない.しかし、教員側が 学習者の学習進捗状況を確認したいということもあるであろう.こうした教員 側の要望は、LIS Basic Outcomes Service を利用することで対応が可能である.

開発した学習支援ツールでの学習結果を LMS (Moodle1.9) へ送信するための実装方法は,以下のとおりである.

 まず、http://www.imsglobal.org/developers/BLTI/よりダウンロードした「dist」 フォルダ内の「setoutcome.php」という IMS が公開しているサンプルのソース コードをコピーし、開発した学習支援ツール用に編集する.本研究では、開発 した学習支援ツールの科目「Word」の練習問題である「タスク 4」の学習結果 を LIS Basic Outcomes Service 経由で LMS (Moodle1.9) に送信するための「w t4.php」とした.

2)「wt4.php」を, LIS Basic Outcomes Service 経由で LMS に送信するためのコ ードとログインユーザごとに LMS (Moodle1.9) へ送信するために振り分ける コードに編集する. 編集箇所は7箇所である (図 34参照).

現状では、まず、LMS (Moodle1.9)の lis_result_sourcedid を事前に調べ、その後、得られた lis_result_sourcedid を元に「wt4.php」をコーディングするという2つの作業が必要である.

```
23 $url = 'http://ymkami.sakura.ne.jp/moodle/mod/basicIti/service.php';
24 $oauth_consumer_key = 'gakushu';
25
26 if($task == 'gakushu:9'){
27
28 $sourcedid = '118816ddcd69632ddc63398d556806aa7296e168c2aa12988381201827d168a8:::9:::19';
29 $cauth_consumer_secret = 'gakushu'; 
30 $message = 'basic-lis-updateresult';
31 $grade = $seikairitu/100.0;
32
33 <mark>$data =</mark> array(.
    'lti_message_type' => $message,
'sourcedid' => $sourcedid,~
34
35
    'result_statusofresult' => 'final',~
'result_resultvaluesourcedid' => 'decimal',~
'result_resultscore_textstring' => $grade);~
36
37
38
39
40 $newdata = signParameters($data, $url, 'POST', $oauth_consumer_key, $oauth_consumer_secret);
41 $retval = do_post_request($url, http_build_query($newdata));
```

図 34 wt4.php

<23行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する PHP ファイル 「service.php」(サーバ/moodle/mod/basiclti/service.php)の URI を指定するため に編集する.

<24 行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する際に、どの「Resource Key」を使用するのかを指定するために編集する.

<26行目>

学習支援ツールの学習結果をログインユーザごとに Moodle1.9 の活動に送信 するために追加する.

<28行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上のどの活動にどの UserID を使用して送信するのかを指定するために編集する.

<29行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する際に、どの「Remoto Tool Password」を使用するのかを指定するために編集する.

<31行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する際に, どのよう な評点を送信するのかを指定するために編集する. <33~38行目>

学習支援ツールの学習結果を Moodle1.9 上の活動に送信する際に, どのよう な形式の評点を送信するのかを指定するために編集する.

本節の最後に、ログインユーザごとの学習支援ツールでの学習結果(Word タ スク 4)を以下に示す(図 35 参照).

ネットワーク援用教育論:表示:評定者レポート ジャンブ								
学習支援 ▶ 2006-61-36430 ▶ 評定 ▶ 表示 ▶ 評定者レポート								
処理の選択								
ネットワーク展用								
名/姓	†		🍈 Basic LTI 経由でのツ 🖡	🌍 学習支援ツール ↓	🌍 Wordタスク3 🌓	🌍 Wordタスク4 🌓	え コース合計 ↓	
2	moodle moodle		72.00			100.00	86.00	
3	murakami yukio		-	86.00		43.00	64.50	
2	山口太郎		-			71.00	71.00	
2	渡邊 浩之		-	-		86.00	86.00	
3	石井 恵利佳					86.00	86.00	
	£	平均	72.00	86.00		77.20	78.70	

図 35 LMS 側から見たユーザごとの学習進捗状況

第4章 開発した学習支援ツールの評価

4.1 形成的評価方法

開発した学習支援ツールが,バグがなく意図した通りに動作することを確認 するために,学習者検証の原則に従い,形成的評価を行った.形成的評価の方 法としては,1対1評価を行った.1対1評価の内容は以下のとおりである.

実施日	平成 24 年 6 月 7 日・ 6 月 9 日
対象者	教授システム学専攻2年 渡邊浩之さん・石井恵利佳さん
莎在市会	学習支援ツールの学習科目(Word・Excel・PowerPoint)の
評価的谷	内,完成している Word の練習問題のみ.
アンケート用紙	あり(図 36 参照)
	1)メールおよび Skype にて一通りの操作説明を行う.
	2) 任意の練習問題を行ってもらう.
	3) エラーなく練習問題ができることを確認する.
	4) アクセスから練習問題まで一人でできる内容であるこ
	とを確認する.
安佐夭顺	5)練習問題の結果がきちんと表示されることを確認する.
<i>夫</i> 施于順	6) 学習進捗状況がきちんと表示されることを確認する.
	7)2度目のアクセスをした際に、学習進捗状況がきちん
	と表示されることを確認する.
	8)2度目のアクセスをした際に、練習問題の履歴がきち
	んと表示されることを確認する.
	9)最後にアンケートに回答してもらう.

表 3 1 対 1 評価

学習支援ツールのアンケート(科目:Wordのみ)

下表にあるアンケート項目にあなたが思うままに評価してください。

アンケート項目	はい	いいえ
①エラーなく練習問題を行うことができましたか		
②アクセスから練習問題まで一人でできる内容でしたか		
③練習問題の結果がきちんと表示されました		
④学習進捗状況がきちんと表示されましたか		
⑤2度目のアクセスをした際に、学習進捗状況が表示されましたか		
⑥2度目のアクセスをした際に、練習問題の履歴が表示されましたか		
(Dその他(使いにくい点,分かりにくい点など)自由に記述してくたさ		

ご協力ありがとうございました.

4.2 評価結果

e ラーニング実践演習 I および II において,同じチームとして教授システム 学専攻に在籍している2名の方に実施した1対1評価について,アンケート項 目に照らして述べる.

- エラーなく練習問題を行うことができましたか
 2名の方とも「はい」を選択.
- 2) アクセスから練習問題まで一人でできる内容でしたか
 2名の方とも「はい」を選択.
- 線習問題の結果がきちんと表示されました
 2名の方とも「はい」を選択.
- 4) 学習進捗状況がきちんと表示されましたか2名の方とも「はい」を選択.
- 5) 2度目のアクセスをした際に、学習進捗状況が表示されましたか 2名の方とも「はい」を選択.
- 6)2度目のアクセスをした際に、練習問題の履歴が表示されましたか2名の方とも「はい」を選択.
- 7) その他(使いにくい点、分かりにくい点など)自由に記述してください.
 ・練習問題の結果に、〇×という情報フィードバックだけでなく、評価フィードバックが欲しい.(図 37 参照)
 - ・背景デザインがあるために、文字が見にくい.(図 38参照)
 - ・画面上のナビゲーション,例えば「ポータル」が「トップ画面」である ということがわからない.(図 39参照)
 - Safari をブラウザとして使っているが、学習結果の日付が「2012-06-」
 というふうになっている.(図 40 参照)
 - ・タスク8で画面に数値(①~⑫まで)が表示されていますが、問題文に応じて、問うている数値は別色にすると見やすいと思います。もう少し、数値が大きいと見やすいと思います。

例えば、「下図の①を何というか?」という問題では、①を別色で表示す るといったことです。(図 41 参照)



図 37 評価フィードバックがない例



図 38 文字が見にくい例



図 39 「ポータル」が「トップ画面」であるということがわからない例



図 40 Safari による日付が表示されない例



図 41 丸数字の識別が困難な例

以上の結果から、開発した学習支援ツールが、バグがなく意図した通りに動 作することを確認することができた.しかし、ユーザインターフェースに関し ては、文字の大きさや見やすさなど改善する必要があると思われる.

第5章 おわりに

5.1 まとめ

本研究では、情報基礎科目(Word・Excel・PowerPoint)の学習支援を目的と した、Basic LTI に準拠した学習支援ツールを開発し、その学習支援ツールを Moodle 1.9、Moodle 2.2、Canvas などの Basic LTI に準拠した LMS から呼び出す ことができることを検証した.また、同一の学習支援ツールでありながら、呼 び出し元の LMS コース毎や設置場所毎に別の学習内容を呼び出される実装、具 体的には、学習支援ツールの練習問題を getResourceKey()メソッドを利用して 直接呼び出すことがきることを検証した.さらに、学習支援ツールでの学習結 果としてのスコア値を LIS Basic Outcomes Service 経由等で LMS に送信するこ とができることを検証した.

特定の LMS 上で動作するように設計された学習支援ツールは,同一種類の LMS 上でのみ動作可能であり,また,LMS のインストール毎に,学習支援ツー ルもプラグイン等としてインストールする必要がある.しかし,Basic LTI に準 拠した学習支援ツールであるならば,Basic LTI に準拠した LMS からすぐに(移 植の必要がなく)動作させることが可能であり,逐一インストールすることも 不要であるということを検証することができた.特に,独自開発した学習支援 ツールを利用する場面において,Basic LTI が非常に有効な手段となることが予 想される.

5.2 今後の研究

Basic LTI は, e ラーニングにおける学習支援ツールの相互運用性を保証する 標準規格として広まりつつあるが,その潜在的な可能性を活かした実装例が現 状ではまだ少ない.今後の研究では,1)形成的評価の結果を踏まえ,開発した 学習支援ツールを改善し,実際の情報基礎科目の受講生に提供し,学習支援ツ ールが学習に問題なく利用できるか等の評価を行う,2)通例では単一の LMS 内の範囲でしか行うことのできない相互評価や協調学習の活動を,Basic LTI を 使うことにより複数の LMS 間でも可能にする実装を行う,という2点を考えて いる. 1)に関しては、実際の情報基礎科目の受講生に提供する前に、学習支援ツールの未完成科目(Excel および PowerPoint)を完成させ、小集団評価を実施したい.

2) に関しては、学習支援ツールの各科目(Word・Excel・PowerPoint) にある「掲示板」を完成させ、まず、LMS には Moodle を利用し、異なる組織の Moodle 間で相互評価や協調学習を行うことができることを検証したい. それが検証で きれば、次に、異なる LMS(例えば Moodle と Canvas など)間で相互評価や協 調学習を行うことができることを検証したい.

これが実現すれば、1つの学習テーマについて、他大学の学生とのディスカ ッションや他大学の教員とのディスカッション、あるいは他大学の教員からコ メントを得ることが可能となる.特に「態度スキル」のオンライン学習におい て、学部や専攻の枠を超えたディスカッションにより、実りのあるオンライン 学習環境となると思われる.

謝辞

本研究におきまして, Basic LTI をご紹介いただき, また, 平日, 休日を問わ ず論文執筆にお付き合いいただき, 私の意見を十二分に取り入れて下さり, 大 変親切にご指導いただきました主指導の喜多敏博教授, 学会発表前の予行練習 において大変貴重なご意見をいただいた副指導の中野裕司教授, いつも温かく 論文執筆を見守っていただいた副指導の江川良裕准教授, 大変お忙しい中, 形 成的評価にご協力いただき, 大変貴重なご意見をいただいた教授システム学専 攻2年の渡邊浩之さん, 石井恵利佳さんに心から感謝の意を表します.

参考文献

[1] IMS Global Learning Consortium,

"IMS Interoperability Conformance Certification Status", available from

<http://www.imsglobal.org/cc/statuschart.cfm>(accessed 2012/09/26)

[2] IMS Global Learning Consortium,

"IMS GLC Learning Tools Interoperability Implementation Guide", available from http://www.imsglobal.org/lti/v1p1pd/ltiIMGv1p1pd.html

(accessed 2012/04/08).

[3] IMS Global Learning Consortium,

"Learning Tools Interoperability v1.0 Project Group", available from

<http://www.imsglobal.org/toolsinteroperability2.cfm>

(accessed 2012/04/08).

[4] IMS Global Learning Consortium,

"IMS GLC Learning Tools Interoperability Implementation Guide", available from http://www.imsglobal.org/developers/BLTI/materials/2010-05-20-blti-php-02.pdf (accessed 2012/04/08).

[5] IMS Global Learning Consortium,

"IMS Learning Tools Interoperability (1.1)", available from

<http://www.imsglobal.org/developers/LTI/test/v1p1/docs/LTI_Overview_1_1.pdf> (accessed 2012/04/08).

[6] ウィキペディア:OAuth, available from

< http://ja.wikipedia.org/wiki/OAuth#cite_note-0>

(accessed 2012/04/08).

[7] 日本イーラーニングコンソーシアム:SCORM とは,

available from<http://www.elc.or.jp/tabid/252/Default.aspx>

(accessed 2012/04/08).

[8] basiclti4moodle,

available from < http://code.google.com/p/basiclti4moodle/>

(accessed 2012/04/08).

[9] 村上幸生・喜多敏博・江川良裕・中野裕司, Basic LTI に準拠した学習支援

ツールの開発, 情報処理学会 CLE 研究会 第7回研究会, セッション3 (関西学院大学 大阪梅田キャンパス)(2012年5月26日).